



ヨネックス株式会社

データに基づく経営判断に向けてDXを推進 お客様の増大を実現する グローバル経営基盤の確立へ



業種

製造業

事業内容

スポーツ用品の製造および販売、ゴルフ場の運営

売上高

515億円(連結:2021年3月期)

従業員数

1,785名(連結:2021年3月期)

本社

東京都文京区

URL

<https://www.yonex.co.jp/>

ソリューション

SAP S/4HANA®、
SAP HANA® Enterprise Cloud、
SAP® Analytics Cloud

活用分野

財務/管理会計、販売管理、在庫/購買管理、分析

バドミントン、テニス、ゴルフなど、各種スポーツ用品を幅広く展開するヨネックス株式会社は、DX戦略の中で基幹システムの刷新に乗り出し、2022年8月の本稼働開始に向けてSAP S/4HANA®、SAP HANA® Enterprise Cloud、SAP® Analytics Cloudを採用。

グローバルサプライチェーンの可視化・最適化、抜本的な業務改革と付加価値の高い業務への人財集中、スピーディーな課題分析などに向けた取り組みを加速させています。

導入の背景

- 創業以来の「いいものづくり」にデジタルを掛け合わせたDXの推進
- グループ企業の取引状況や財務情報の可視化による迅速な意思決定
- サプライチェーンの強化や業務の標準化によるオペレーションの改善
- スクラッチ開発を重ねて運用してきた旧基幹システムの刷新

導入のポイント

- 若手社員を中心にメンバーを編成し、現場の声をもとに改革を進行
- 個別最適から全体最適の業務システムへの転換
- 組織における役割分担の再整理と規程類の見直し

SAP選択の理由

- グローバルスタンダードシステムの活用による海外展開の強化
- パッケージの標準機能ベースの導入で、業務の標準化が実現可能
- SAP S/4HANA®と連携するマネージドクラウドサービスSAP HANA® Enterprise Cloud、リアルタイムな経営情報分析を支援するSAP® Analytics Cloudの存在

導入効果(期待する効果)

- ヨネックスグループにおけるグローバルサプライチェーンの可視化・最適化
- 抜本的な業務改革と付加価値の高い業務への人財の集中
- スピーディーな課題分析・戦略立案のための経営情報基盤の強化

「ものづくりの力」にデジタルを掛け合わせ 機動力と発信力の強化へ

各種スポーツ用品をグローバルに展開するヨネックス。現在、欧米やアジアなど全世界にグローバルな販売ネットワークを広げ、海外の売上比率は約55.8%（2021年3月期）に達しています。

コロナ禍を契機に高まった人々の健康志向により、スポーツの重要性はより増えています。そこで2021年度の重点分野として、「中国を中心とするアジアにおけるバドミントン事業の成長」、「欧米におけるテニスのブランド認知向上とマーケティング強化」、「DXの推進」の3つを掲げ、グローバル化を加速させていく方針を掲げています。DXについて、代表取締役社長の林田草樹氏は次のように語ります。

「創業以来、ヨネックスが大切にしている『いいものを作って世界のお客様に貢献していく』精神と、デジタルテクノロジーを融合させ、これからの世界に伝えていくことを考えています。私たちの強みは開拓者精神であると自負しており、どこよりも多くお客様と接する時間と機会を確保してきました。そこにデジタルの力を掛け合わせ、より多くのお客様に対応する機動力と発信力を兼ね備えれば、他社にないパワーが生まれると確信しています」

グローバル経営基盤の確立に向けて 基幹システムを再構築

ヨネックスはDXの一環として2020年に自社ECサイトを導入し、販売網の拡大とデジタル接点の拡充を図りました。業務面では、ワークフローシステムによる業務プロセスのデジタル化や、オンライン会議やチャットなどオンラインツールを活用し、業務効率化やスピード化による生産性向上に取り組んでいます。

「直接的な接点を大切にしている従来のスタイルとEコマースの両輪により、多くのお客様にいいものをお届けしていきます。世界でお客様を増やしていくために、どこに経営資源を投入すべきか、データに基づいて判断するには、DX

の推進が不可欠です」と、経営企画室長の西原 徹氏は語ります。

その中で浮上したのが、基幹システムの刷新でした。国産のパッケージソフトをベースに開発した従来の基幹システムは、改修を重ねながら運用を続けてきたため、オペレーションの属人化と煩雑化が進んでいました。海外拠点の基幹システムも個別に導入/運用していたために、グループ企業の取引状況や財務情報が見えづらく、迅速な意思決定が難しくなっていました。従来の仕組みのままでは新たなビジネスモデルへの柔軟な対応が難しくなると考えた同社は、基幹システムの再構築を決定します。

SAP S/4HANAによって業務を標準化 付加価値の高い業務に人財をシフト

新基幹システムの導入目的は、「お客様増大を実現するグローバル経営基盤の構築」とし、達成目標として、(1)グローバルサプライチェーンの可視化・最適化、(2)抜本的な業務改革/付加価値の高い業務への人財集中、(3)スピーディーな課題分析・戦略立案のための経営情報基盤の強化の3つを掲げています。

それらの目的を実現するERPパッケージとしてSAP S/4HANA®、インフラ基盤にSAP HANA® Enterprise Cloud、経営情報の分析基盤としてSAP® Analytics Cloudを採用しました。SAPを選択した理由を、情報システム部システム開発課長の高柳卓士氏は次のように語ります。

「創業以来、ヨネックスが大切にしている『いいものづくり』への思いとデジタルの力を掛け合わせ、機動力と発信力を兼ね備えることで、**他社にないパワーが生まれると確信しています**」

林田草樹氏
ヨネックス株式会社
代表取締役社長

「全世界で業務プロセスを標準化し、経営状況を適時把握するならグローバルスタンダードのSAPソリューションが最適です。SAPを利用すること自体が、業務の改善や効率化につながると考えています。そして付加価値の高い業務に人財をシフトし、DXの新たな活力にすることが目標です。さらにSAP S/4HANAと連携したSAP Analytics Cloudを活用して経営戦略を練りながら、グローバル市場に挑戦していきます」

今回導入するSAP S/4HANAのモジュールは、財務会計・管理会計(FI/CO)、販売(SD)、購買在庫(MM)。これによって経営管理、予算管理、原価管理、在庫管理の改革と、業務効率化・標準化を目指しています。新基幹システムの導入プロジェクトは、2021年1月にキックオフ。要件定義と概要設計を経て、2021年6月より実現化フェーズに移行しています。今後、各種テストや教育・移行フェーズを経て、2022年8月の本稼働に向けてプロジェクトを進めています。

プロジェクトチームは若手社員を中心に編成し、現場の声をもとに改革を進行しています。西原氏は「ヨネックスが将来、どの方向に向かっていくべきか、若いメンバーが新しい働き方や業務のやり方を考え、それを実現することが、大きな力になると信じています」と語ります。

多方面からDXを着々と進めるヨネックス。グローバル経営基盤を確立した先には、ヨネックスブランドがこれまで以上に世界で広く愛される未来が広がっています。